

講義ユニット名	脳神経		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	くりす かおる 栗栖 薫	所属	脳神経外科学 (内線 5225 )	
		メール	kuka422@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	ほそみ なおひさ 細見 直永	所属	脳神経内科学 (内線 5201 )	
		メール	nhosomi@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>脳神経は中枢神経系、末梢神経系により複雑に構成され、筋肉の動きを制御し、一方で外界を感知するために必要な五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、嗅覚）などを司っている。</p> <p>中枢神経系、末梢神経系や筋肉の構造や機能を理解することは、臨床において中枢神経系、末梢神経系や筋肉における多岐にわたった疾患を的確に診断し、適切な治療を行っていく上で重要である。</p> <p>さらに、それぞれの系における循環障害、腫瘍、炎症、変性などにより全身に影響する障害を呈し、死亡・寝たきり・要介護の原因となるため、その病態と症状を適切に理解することが求められる。</p>			
	<p>医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。</p> <p>神経組織の微細構造を説明できる。</p> <p>中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。</p> <p>脳の血管支配と血液脳関門を説明できる。</p> <p>脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。</p> <p>主な脳内神経伝達物質（アセチルコリン、ドパミン、ノルアドレナリン、グルタミン酸）とその作用を説明できる。</p> <p>髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。</p> <p>脊髄の構造、機能局在と伝導路を説明できる。</p> <p>脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。</p> <p>脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢）の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。</p> <p>脳幹の構造と伝導路を説明できる。</p> <p>脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。</p> <p>脳幹の機能を概説できる。</p> <p>大脳の構造を説明できる。</p> <p>大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野・連合野）を説明できる。</p> <p>記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。</p> <p>随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。</p> <p>小脳の構造と機能を概説できる。</p> <p>大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。</p> <p>痛覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。</p> <p>視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。</p> <p>交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。</p> <p>視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。</p> <p>脳・脊髄CT・MRI検査で得られる情報を説明できる。</p> <p>神経系の電気生理学的検査（脳波、筋電図、末梢神経伝導速度）で得られる情報を説明できる。</p> <p>脳血管撮影検査で得られる情報を説明できる。</p> <p>神経・筋生検で得られる情報を説明できる。</p> <p>小脳性・前庭性・感覚性運動障害を区別して説明できる。</p> <p>振戦を概説できる。</p> <p>その他の不随意運動（ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア）を概説できる。</p> <p>歩行障害を病態に基づいて分類できる。</p> <p>失語症と構音障害の違いを説明できる。</p> <p>言語障害を病態に基づいて分類できる。</p> <p>脳浮腫の病態を説明できる。</p> <p>急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。</p>			

講義ユニットの  
到達目標

脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。  
脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）の病態、症候と診断を説明できる。  
脳血管障害の治療とリハビリテーションを概説できる。  
脊髄血管障害を概説できる。  
認知症の病因を列挙できる。  
認知症をきたす主な病態（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。  
Parkinson（パーキンソン）病の病態、症候と診断を説明できる。  
筋萎縮性側索硬化症を概説できる。  
脊髄小脳変性症を概説できる。  
脳炎・髄膜炎の病因、症候と診断を説明できる。  
多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。  
脳膿瘍を概説できる。  
主な脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位を説明し、病態を概説できる。  
頭部外傷の分類を説明できる。  
急性硬膜外・硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。  
慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。  
頭部外傷の治療とリハビリテーションを概説できる。  
ニューロパチーの病因（栄養障害、中毒、遺伝性）と病態を分類できる。  
Guillain - Barre（ギラン・バレー）症候群の症候、診断を説明できる。  
Bell（ベル）麻痺の症候、診断と治療を説明できる。  
主な神経痛（三叉・肋間・坐骨神経痛）を概説できる。  
重症筋無力症の病態、症候と診断を説明できる。  
進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候と診断を説明できる。  
周期性四肢麻痺を概説できる。  
ミトコンドリア脳筋症を概説できる。  
てんかん（小児を含む）の分類、診断と治療を説明できる。  
水頭症の種類、症候と診断を説明できる。  
脊髄空洞症を概説できる。  
二分脊椎症を概説できる。  
各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。  
視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。  
ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。  
ホルモンの分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応の型を説明できる。  
Cushing（カッシング）病の病態と診断を説明できる。  
先端巨大症を概説できる。  
汎下垂体機能低下症を概説できる。  
尿崩症を概説できる。  
視床下部・下垂体の画像検査の意義と適応を説明できる。  
高プロラクチン血症を概説できる。  
下垂体腫瘍の外科的治療を説明できる。  
アミロイドーシスを概説できる。  
プリオン病、CJD、PMLを概説できる。  
ヒトT細胞白血病ウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。  
水痘・帯状発疹の症状、診断と治療を説明できる。  
ジフテリア、破傷風と百日咳の症候、診断と予防を説明できる。  
リケッチア感染症を概説できる。  
自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。  
膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。  
皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる。  
血管炎症候群を列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。  
シェーグレン症候群を概説できる。  
ベーチェット病を概説できる。  
絞扼性神経障害の症候、診断と治療を説明できる。  
末梢神経の外傷の症候、診断と治療を説明できる。  
高齢者における病態・症候・治療・リハビリテーションの特異性を説明できる。  
高齢者における総合機能評価を説明できる。  
老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）の病態、治療と予防を説明できる。

	<p>高齢者の栄養摂取の特殊性を説明できる。</p> <p>呼吸困難の原因と病態を説明できる。</p> <p>めまいの原因と病態を説明できる。</p> <p>めまいを訴える患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>頭痛の原因と病態を説明できる。</p> <p>頭痛を訴える患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下の原因と病態を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下を訴える患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>嚥下困難・障害の原因と病態を説明できる。</p> <p>嚥下困難・障害を訴える患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>けいれんの種類と原因を列挙できる。</p> <p>けいれん患者の診断の要点を概説できる。</p> <p>けいれん発作時の初期治療を概説できる。</p> <p>意識障害・失神の原因を列挙し、その病態を説明できる。</p> <p>意識障害の程度評価(GCS、JCS)を説明できる。</p> <p>意識障害・失神をきたした患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>意識障害・失神をきたした患者の治療を概説できる。</p> <p>脳脊髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>エックス線、CT、MRIと核医学検査の原理を説明できる。</p> <p>エックス線(単純、造影)、CT、MRIと核医学検査の読影の原理を説明できる。</p> <p>超音波機器の種類と原理を説明できる。</p> <p>超音波機器の種類を列挙し、概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	3分の2以上の出席がない場合は試験(本試験、追試験とも)の受験資格を与えない。代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者には試験受験を認めない。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭ほか 南山堂</li> <li>2) 研修医・医学生のための神経内科学 神田隆 中外医学社</li> <li>3) 神経内科ハンドブック鑑別診療と治療 水野美邦 医学書院</li> <li>4) 老年医学テキスト 日本老年医学会 編 メジカルビュー社</li> <li>5) 標準脳神経外科学 第12版 著者：児玉南海雄 医学書院</li> <li>6) 脳神経外科学 改訂11版 総編集：太田富雄 金芳堂</li> <li>7) グリーンバーグ脳神経外科バンドブック 原著第6版 監訳 黒岩敬彦 金芳堂</li> <li>8) 改訂版 脳神経外科学必修講義 著者：松谷雅生 メジカルビュー社</li> <li>9) 末梢神経の臨床—診断・治療・リハビリテーション 山野慶樹 著 医歯薬出版</li> <li>10) 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 鈴木淳一ほか 医学書院</li> </ol> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11) 講義時にプリントを配布するので、内容を精読すること</li> <li>12) 日本神経学会のガイドライン一覧のURL <a href="http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html">http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html</a></li> </ol>